

1952年 尖閣諸島調査
写真アルバム
魚釣島 北小島 南小島
撮影：新垣秀雄氏

No.1, 「南小島より魚釣島を望む」

1952年 尖閣諸島南小島 新垣秀雄氏撮影

南小島北西の石垣跡周辺の海岸から見える魚釣島。

写真右端に見えるのは北小島の断崖。



No.2, 「北小島」

1952年 尖閣諸島北小島 新垣秀雄氏撮影
洋上から望む北小島。



No.3, 「北小島の海鳥」

1952年 尖閣諸島北小島 新垣秀雄氏撮影
周辺の上空にはカツオドリ、アジサシ類等
多数の海鳥が舞っている。



No.4, 「南小島石垣跡での記念撮影」

1952年 尖閣諸島南小島 新垣秀雄氏撮影
尖閣諸島に作られた石垣は魚釣島と南小島の
2カ所が確認されている。1950年頃には
宮古諸島伊良部島の漁民により写真の南小島
石垣跡を基地として、冬季のカツオ漁とカツオ節
製造が行われた。



No.5, 「南小島でのキャンプ」

1952年 尖閣諸島南小島 新垣秀雄氏撮影

南小島調査中に天候が悪化したため、調査団は北西の岩山にある洞窟でキャンプを余儀なくされた。写真後方に写るレンガ積みは、明治期に作られた貯水槽。



No.6, 「南小島の岩山から望む魚釣島」

1952年 尖閣諸島南小島 新垣秀雄氏撮影

岩山から魚釣島が遠望できる。山の岩肌には多数のカツオドリが産卵繁殖している。



No.7, 「カツオドリ」

1952年 尖閣諸島南小島 新垣秀雄氏撮影
一か所に集められたカツオドリとその卵。



No.8, 「カジキ突き船」

1952年 尖閣諸島魚釣島 新垣秀雄氏撮影
カツオ漁期を終えたカツオ漁船は、冬から春前
にかけてカジキ突き船に仕立て直され尖閣まで
出漁した。



No.9, 「古賀辰四郎が開いた掘割」

1952年 尖閣諸島魚釣島 新垣秀雄氏撮影
魚釣島でカツオ節を製造するにあたり、
古賀辰四郎は魚釣島の北西部に工場を設け、
附近の海岸にカツオ漁船が出入りできる
掘割を開いた。



No.10, 「尖閣諸島 古賀のカツオ工場跡」

1952年 尖閣諸島魚釣島 新垣秀雄氏撮影
魚釣島調査の際に調査団が宿泊した古賀の
カツオ工場跡である。当時、石垣の中には
茅葺き小屋が2軒残存していた。



No.11, 「尖閣諸島 古賀のカツオ工場跡」

1952年 尖閣諸島魚釣島 新垣秀雄氏撮影
魚釣島調査の際に調査団が宿泊した古賀の
カツオ工場跡内の小屋。中央に高良鉄夫氏、
右隣に多和田真淳氏、手前に琉球大学学生が写る。



No.12, 「魚釣島頂上付近から南斜面を望む」 :

1952年 尖閣諸島魚釣島 新垣秀雄氏 撮影
標高363mの魚釣島頂上付近から南側の絶壁。



No.13,「海人と琉大生」：

1952年 尖閣諸島魚釣島 撮影者不詳
魚釣島鯉節工場跡周辺での記念写真。写真
の人物は左から、並里長信氏、浦崎蒲次氏、
不詳、新垣秀雄氏。

当時尖閣諸島への便船は無く、調査団は
同諸島へ出漁するカジキ船に便乗し渡島
した。琉大生として調査に参加した新垣
氏はカメラを持参し調査の様子を撮影した。



No.14, 「基本丸乗組員と調査団」

1952年 基本丸船上にて 新垣秀雄氏撮影
高良鉄夫氏による第2回尖閣諸島学術調査、
1950年に単独調査を実施した高良氏は2年後、
学術専門家らによる資源調査団を編成し、
再度尖閣諸島魚釣島、南小島を調査した。
尖閣諸島渡島の際に、調査団は篠原光次郎氏
所有のカジキ船、基本丸に便乗した。
写真の人物らは手前が調査団の面々、中段か
らは基本丸乗組員の方々である。

